

feature interview

DJ KEN-BO

音楽の楽しさを伝え続けてくれるDJ KEN-BO。三周年を迎え、ますます進化する金曜日の理由がインタビューに つまっています。

■“The Finest”が8月で3周年を迎えましたが、火、金、土曜日とHARLEMには3つのレギュラーパーティーがあるけど、それぞれの曜日にメインのDJがいて、基本的にはやりたいことをやっていくってところがある。そんな中で、金曜日は金曜日の感じってのを、出そうって思ってやってきたから、基本的なコンセプトっていうのは変わってない。曲は変わるけど、やりたい事とか全体像はあまり変わってないと思う。だけど、お客さんはどんどん変わってきてるんで、それに対してどう音楽性を提示するのか、っていうのはいつもやりながら考えてますね、でも気持ち的な部分では自分の中の週末像ってのを、変えずにやってきてますね。いい意味で「相変わらず」って感じですかね(笑)。

■具体的に、“The Finest”はどんなパーティーだと思いますか？

最近は何とも言えない時もあるけど、音を楽しみに遊びに来ている人が多いと思うし、アダプトしてるBX CAFEもパーティー的にそれぞれ違いはあるけど「まずは音ありき」って事では同じ方向を向いていると思う。金曜日だからこそ出来るパーティーは出来てくると思うんだよね。逆に(同じ週末って意味で)土曜日は金曜日にはできないことをしてるんだと思う。色々かけて皆を楽しませるってのは同じなんだと思うけど、基本にあるのはオレらの中での週末観でやって、それはワタさんとオレの週末観で、TAIKI君とかHAZIMEのそれとは同じではないと思うのね。言葉では表現できないけど、みんなに楽しんで帰ってもらいたいなと思いつつやってる。楽しいかどうか判断するのはお客さんだから、中には土曜日の方が好きな人もいるだろうし、他のクラブに行ってる人もいるだろうし、それは良いと思うんだよね。ラーメンで言えば、家系が好きな人もいれば塩とか味噌だったり、でもやっぱりスタンダードな醤油味が好きだ、って人もいる。ってのと一緒ですよ(笑)。みんな旨いんだけど「そんな中でオレはこれが好み」ってなってるのが一番理想的だと思うし。

■最近DJをしていて感じることは？

アーティストがどんどんデビューしていくのと同時に、いなくなる人もいていう状況の中で、最近リリースされてる曲には個人的に「これ何か好いなー」って思えるものが増えてきてるので、みんながそういう風に感じてくれたら幅も広がるし良いなと思ってますね。一口に『HIP HOP』って言うのも色々な曲があって、『R & B』って言うのも色々な曲があるんで、お決まりな感じだけじゃなくて色々な音楽をかけていきたいなと思っていて。金曜日のHARLEMに関してはあんまり押し売りとかしたくないけど、HOUSEなんかでもHIP HOP/R&B的に聴ける曲があったりするからそういうところにみんな気付いて欲しいなっていうのは心掛けてやってますね。

だから最近のオレ的には「新譜つまんねーな」ってのは全くなくて、相変わらずなものも確かに多いけど、個人的にはSOUTHも嫌いじゃないし。それでいて音楽的に進化してる良いものもたくさんあるし、オレの音楽趣向は雑食性なので、極端にならない程度に色々やりたいですね。お決まりな感じだけじゃなくて、良い意味で「冒険」しながら音楽をうまく伝えていきたい。だから自分が「音」を良い感じで伝えられる時は、もっと色々な曲を織り交ぜる事をうまくできれば理想ですよ。でもお客さんがそういうモードじゃないのに自分だけそんなことしても逆効果になっちゃうし、そうならないようにオレらがうまく作っていく事によっていい音楽を聴かせていけるんだと思う。お客さんに「この音楽いい音楽なんだな」って雰囲気を作って踊ってもらって、結局、そのDJの腕だし空

気だったり展開を読む力だったりすると思うので、そういうところを重視してます。今は若いDJでもROCKとかHOUSEやCLASSICSなんかよく知ってる人が多いし、「好い」って思ってると思うんだけど、それをかけた時に雰囲気やタイミングが踊ってる人に対して「なんか『HIP HOP』じゃなくなった」って感じさせちゃうと、いわゆるメインストリーム以外には拒否反応を起こしてしまうようになってるのね。だからROCKとかHOUSEをかけたのなら、空気を読みながらそういう方向に持って行かないとね。オレとしてはそういう部分を気遣いながらやってるつもり。平たく言うと「DJ」っていう仕事はお客さんをコントロールする立場な訳で、お客さんにコントロールされるようじゃダメだと思っただよね。お客さんに要求されてかけてるようになって、実はコントロールしてるのはこっちだと思ってるし、職業DJだからアゲなきゃいけないところはあるしそれは必須だけど、そういう時に当たり前の曲、当たり前の流れだけじゃつまらないし、たまには良い意味で裏切ったりするのも大事。曲を繋げた時にお客さんの出す声が「イエーイ！」だけじゃなくて「おほ〜」ってなる時もある、っていうかね。そういうところでこそ差が出るんだと思ってますね。かけた曲が同じでも、順番が違ったりつなぐところが違ったりすると全く違うものになるから、そういう部分で勝負したいね。DJってホントに狭間なんです。アゲて「奉仕」するのも大事だし、自分の「エゴ」も出さなきゃつまんないし。色々出来なくちゃいけない。

サッカーで例えたら、センターハーフなんです。バランスを取りながら、守備の時に最終ラインに入ったりもするし、攻撃の時は最前線まで飛び出さなきゃいけない。DJはそうじゃなきゃいけないんですよ。エアリアルでボールが来るのを待って、ずっとアゲアゲかけてアゲるだけアゲて「はい、おしまい」じゃダメだと思っし、守り側倒でもつまんない。それで全体のバランスを見ながら、次のDJにはいいパスを出す、っていう存在でありたいですね。選手で言えばピエラみたいに点も取れるし守れるし統率力もあって献身的、みたいな。ホントはエレガントにピルロみたいなDJをしたいんですけどね。でも(イタリア代表で)どちらかと言えばガットゥーゾに近い感じが現場では望まれるのかな(笑)。

■Scratch Liveはどうですか？

Scratch Liveは使ってるけど、ヴァイナルもずっと使っていきますよ。Scratch Liveだけにはならないと思う。自分的にはレコードを探しながらプレイするっていうスタイルが身体にしみついてるから、その形を崩すのって辛いだろうなって思ってたけど、だんだんレコードを探してるノリでScratch Liveを使えるようになったんで、自分のリズムの中でScratch Liveでプレイできるようになって今は不自由もないし、やっぱり色々な曲をいっぱい持って行けるってのはScratch Liveの利点だと思うから、良いものは取り入れていこうかなと思ってる。

Scratch Liveは音をデータでかける訳だし、レコードでかけた方が絶対に音がいいっていう音楽もあるけど、最近のメインストリームに関してはデータでかけるのとヴァイナルでかけるのとはそこまで差はないと思ってます。ただ、生音だったりDANCE CLASSICSだったりするとやっぱり差が出るから、その時その時のメインになる音楽によってScratch Liveとヴァイナルを使い分けたりしていくことになると思います。実際に地方に行ったり海外に行ったりする時はScratch Liveの方が物理的にも楽だし、Scratch Liveだけでも良い仕事は出来ると思う。今はもう「使わなくちゃダメだ」とか「使ってるのがダメだ」とかそういうのじゃないと思っただよね。要は自分がいかに良い状態でDJが



できるか、って事だと思うから。ただ、コンピューターだから100%は信頼できないし、いきなり(アプリケーションが)落ちちゃったりするようなトラブルは付きまとうことなんで、今は問題はそこだけだね。

■DJ KEN-BO流クラブの楽しみ方を教えてください。

まずは、自分の楽しみ方がクラブの雰囲気を作ってるってのを理解する事が大事だと思う。決まりなんかはないし、別に女の子をチェックしに来てもいいんだけど、あまりにもギラギラして色んな女の子に声掛けまくってるヤツがいたら雰囲気が悪くなったりする事もあるし。例えばNe-Yoの“So Sick”はラブソングじゃなくて「ラブソングなんか今は聴きたくない」って曲なワケ。んでその内容がある程度理解してる女子がフロアで泣き踊りしてる時にそういうギラギラした男子が後ろから腰に手を回してきたら「お前ふざけんなー」ってなるでしょ。最近の意味を理解して踊ってる人も多くなってきたから、「英語は良くワカンネ」で終わらずに、ちょっとだけでも勉強した方が良く、その方が楽しめると思うんですけどね。あとは、音楽にもっと親しくなって、文化だったりそういうものに親しくなっていく事が、自分なりに「クラブはこうやって遊ぶものだ」って解っていきつかけを作っていくんじゃないかなって思います。女の子がクラブにドレスとか着て遊びに来たりするでしょ。そういう人は、クラブは着飾って遊びに行くものだから解っているんだと思うし、そうして楽しんでるんだと思う。オレは仕事で来てるから楽な格好で来たりするけど、オレがお客さんだったらもうちょっとちゃんとした格好で来てるかなって思う。

あとはマナーの問題で、クラブだから何をしてもいいって事じゃないと思っただよね。最近、ブースのところに飲み終わったコップとかペットボトルを置く人がいるけど、あれはホントにやめて欲しいよね。もしそのコップがブースの方に落ちて来てこぼれたりしたら大変な事になるの分かるのかな、って感じ。そういうちょっと考えたら分かるような迷惑な事は絶対にやめて欲しいです。最低限のマナーを守って遊んだ方が絶対いいし、それで音楽とか文化にもっと親しんでいってホントにパーティーを楽しむって事につながっていくと思うから。

■今後のプランは？

とりあえず、動けるうちはクラブで(DJを)やりましょ。これやってるのが一番楽しいし、一番やっていきたい事なんで。この先5年、10年経ってクラ

ブに来なくなる人もいるだろうけど、ずっとこういう音楽が好きでいて欲しいって思うから、そういう音楽をもっと好きにさせるようなDJであり続けたいなって思います。だから記憶に残る時間だったりDJだったりをして行きたいですね。MIX CDとか出すのも、形に残るものとしていいとは思っけど、それとは別に形に残らないものの方が心に残ると思うので、そういうDJで在りたいです。今はそうじゃないけど制作をやりたいって思う事もあるだろうし。でも釣りに言うと「ずっとバス釣ってるけど海も楽しそうだから船釣りもやってみようか」ってなっても釣りは釣りで同じように、現場でDJするのも制作するのも音楽は音楽で基本的には一緒ですから。自分の中で音楽と釣りとスポーツ観戦が「軸」の生活ってのは死ぬまですべて変わらないと思います(笑)。

■読者にメッセージを

ホント、「音楽」が好きになって欲しいです。オレは音楽で人を楽しませたいってのが第一にあるんで、楽しんでテンションが上がるからお酒を飲んで、時には女の子と踊りたくって、っていうのは音有りきだから。それでもっと音楽に深くなってくると、ホントにクラブを楽しめると思う。あとは聴かず嫌い決めつけちゃうと視野が狭くなっちゃうので、色々な音楽を聴いて欲しいですね。実際今クラブでメインの時間にかかるHIP HOPって、発信している国では良い意味でも悪い意味でもPOPSなんです。『メインストリーム』っていう括りで。だけど「そういう感覚」で音楽を聴いてない人が多いって言うか…なんか説明しづらいですけど(笑)「現在進行形のそれだけ」しか聴かなくなってしまう人が多いような気がします。そういう意識を無くすって事がもっと音楽が広く聴けるようになるんじゃないかなって思います。当たり前の事ですけど世界には沢山の良い音楽があるんですよ。そして「HIP HOPが好きだ」って思ったら、外見とかファッションとか悪そうとか、そういう「外側」だけじゃなくて、HIP HOPっていう音楽が良い、って感じて、文化に触れたらもっと深い、だから「HIP HOP」が大好きっていうふうになって欲しいな。HIP HOPは色々な音楽を吸収して出来上がったものだし、だからこそ色々な音楽を聴いて「こういうのもアリかな」って思うところから興味を持っていくと、音楽の視野がどんどん広がっていく訳だから、そうやっていく人が多くなって欲しいです。そこでクラブで「こういうのもいいな〜」って思わせるきっかけを作るのはオレらの仕事だから、オレもまだまだ頑張らないといけませんよ(笑)。